

2009 後期 番号	著者名	書名	出版年	価格 (税別)	本文 ページ 数	やまむろコメント	採用期 1(2007後 期) 2(2008前 期)
1	ナシーム・ニコラス ・タレブ	ブラック・スワン 上・下	2009	1800	上:291 下:235	7つの魔法のコトバで世界を変えてみせましょう。 「ブラック・スワン」と「七面鳥」、「月並みの国」と「果ての国」、「ベル・カーブ」に「マタイ効果」に「プラトンの性(さが)」。杖をひとふり、えいっ、さあどうだっ!! 比喩の巧みさ、問題の本質を突くすると知的ユーモア。今期山室的イチオシです。統計学のお勉強のかたわら、どうぞ(ニヤリ)。	5
2	ピーター ・バーンスタイン	リスク 上・下	2001	714	上:272 下:273	アイディアはリンゴみたいに天から落ちてくるものじゃないんだ。 ベルヌーイやらベイズアンやらラプラスやら、今あなたを悩ませたり楽しませたりしている名前の人たちが、いったいどんな混沌に立ち向かい、何を征服しようと戦ったのか、乱高下する相場の先を読むためか、人びとの平均余命を推測して保険制度をつくるためか、はたまた？ 少しだけその戦場に立ってみよう。神々へと戦いを挑む戦士の気持ちになって。	5
3	ジョージ・A・アカロフ ロバート・J・シラー	アニマルスピリット	2009	2200	275	なぜ？ にしっかり答えてくれる本は、すがすがしい。 たとえば、失業者って、なぜ出るの？ 需要と供給モデルで考えれば、働きたい人が多ければ賃金の下がるはずだから、仕事にあぶれる人は出ないはずだね。 そんな「なぜ？」の8連発。答えられるようになってください。 ちょっとカタメなので、経済学初心者さんは、2-3冊、ほかの経済本で「歯ならし」をしてからどうぞ。	5
4	リチャード・セイラー キャス・サンステイーン	実践行動経済学	2009	2200	370	キーワードはNudge(ナッジ)。ちょっとしたお節介ってとこかな。 行動経済学の本って、ニンゲンってアホだねえ、ひっひっひっと貧乏神さんが揉み手してるみたいな意地悪さがツキモノのだけれど、この本は違います。敢然と問題解決型。アホニンゲンがしあわせに暮らすにはどんな制度設計をすればよいのか。いろいろなケースに具体的な処方箋が示されます。 結婚の民営化、ってどうです、お兄さん？	5
5	ハロルド・ウィンター	人でなしの経済理論	2009	1500	199	この世に正義なんてないのさ、あるのはトレードオフ、こっちよりあっちのほうが「相対的にマシ」という程度の夢も希望もない選択肢だけなのさ。ふんっ。 正義感あふれる若者スピリットを逆撫でしまくりの挑戦状、受けて立ってみてください。	5
6	瞠目卓生	アダム・スミス	2008	880	283	今さらアダム・スミス？ そう、今だからアダム・スミス。 前期院生クラスでの経済本いちばん人気。 ご存知「神の見えざる手」は決してメカニカルな自由競争システム礼賛ではなくて、人間と社会に対する深い信頼と洞察に裏うちされたものなのですよ、コチコチの古典をゆっくりじっくり吟味しながら、スミスの意図の深奥へと錘が下ろされてゆきます。 『国富論』の陰に『道徳感情論』あり。 経済イコールお金の動き、そんなカサついた先入観が、いつしかやんわり溶かされて、堅苦しい学問のお話なのに、心なごんでしまう不可思議さ。 ただし！ 濫読にはとてもとても不向きです。叡智の女神は根気よく扉を叩く者にしか微笑みません、少なくともこの本の場合は。	4

7	ジェイムズ・バカン	真説アダム・スミス	2009	1800	203	<p>カビくさい古典の棚卸しではありません。しっかり現代につながってます。</p> <p>行動経済学。人間の感情や心理に注目して経済学を再構築しようという、今まさに旬なこの分野は、じつはコチコチ経済学の始祖サマたるアダム・スミスの『道徳感情論』(かの見えざる手の『国富論』じゃないほう)と地下水脈でしっかりつながっているんです。あらびっくり。</p> <p>1778年エディンバラ。悪臭(当時はどこでもそうだった)よけの花束かかえ、杖をマスケット銃みたいに肩にかついで、首をふりふりスミスが歩く(175ページ)。勤め先は関税局(自由貿易論者なのに!)。全然ゴリツパじゃない偉人さんに出会えるのも楽しみ。</p>	5
8	ダン・アリエリー	予想どおりに不合理	2008	1800	314	<p>小ネタのオンパレード、あたかも回転寿司の如し。</p> <p>オレってどうしていつも締め切り直前にしか始められないんだろ、とか、ダメカレだからさっさと振っちゃいたいの、なんで見切りを付けられないのかしらん、とか、日頃のあなたの不合理行動を実験ですっきり証明してみせます。</p> <p>なんだ、みんなそうなんだと安心できるかもしれないけれど、だからって問題を解決してくれるわけじゃないのね。そこが行動経済学のウィーク・ポイントと見た!</p>	4
9	マッテオ・モッテルリーニ	経済は感情で動く	2008	1600	302	<p>こちらはイタリア仕込みの行動経済学。話題はほかの本ともかぶるけど、トピックごとにいいに解説してあるのがメリット。</p> <p>楽しい実験例が豊富なので、つつい呑み会などで話したくなるけれど、度が過ぎてウザがられないように。これを「後悔回避 regret aversion」と申します。</p>	3
10	スティーヴン・レヴィット スティーヴン・J・ダブナー	ヤバい経済学	2007	2000	379	<p>今期、大量参入させた行動経済学本の中なかでも、人ひとりの行動でなく、社会全体の構造をマナイトに乗せて料理しているところが特徴です。犯罪の発生率の劇的減少を中絶の合法化から説明する、というように。</p> <p>ひとつのテーマの掘り下げがそこそこ深く、あまりコマジレでないのもGOOD。そして、語り口の軽やかさは、さすがベストセラー。</p>	4
11	山本御稔	秘伝のタレは腐ってる	2009	1500	243	<p>おふざけに見えて、期待効用理論や割引率や、ツボはがっちり押さえてある。</p> <p>アメリカンやイタリアンで胃もたれしそうな体調のときは、こちらのお茶漬けさらさらで済ませるのも悪くない。</p>	5
12	中島隆信	大相撲の経済学	2008	680	237	<p>相撲協会とは、これすなわち250年も続いている格闘技ビジネスのシステムなり。</p> <p>実力主義なのに年功序列。神とも崇められているはずの貴重な横綱の給料はたった282万円。年寄株に八百長と数々の特殊性に彩られたこの相撲産業を経済学の視点で分析すると、さてどうなるか。朝青龍がどうして品格がなくても平気でいられるのか、も分かります。</p>	2
13	ブライアン・カプラン	選挙の経済学	2009	2400	396	<p>学部生さんには、ちと手ごわすぎるかな(と挑発ときます)。</p> <p>第三章だけでも覗いていただけたらうれしいです。「景気よくなると思う?」「今の税金って高すぎるかな?」などなど、一般人と経済学者に37コと同じ質問をして分析したユニークなアプローチ。</p>	5

14	ジェームズ・スロウィツキー	「みんなの意見」は 案外正しい	2006	1600	276	シロウトに何が分かるんだ！ いやいやいやいや、シロウトも集団になると、専門家より賢かったりするんですよ。 ほんとかな？ まだまだ経験則を並べている段階といったところだけれど、交通渋滞、市場から民主主義まで、事例の広がりがありとろいなので、どの章からでもつまみぐいをどうぞ。	5
15	パンカジ・ゲマワット	コークの味は国ごとに 違うべきか	2009	1905	399	グローバル化？ だめだよ、そんな夢物語に踊っちゃ、企業経営は成り立ちません。 TOYOTA に DELL に WAL-MART。おなじみ企業の経営戦略を題材に、コンサル業務がてきぱきと展開されてまいります。 どうすれば儲かるかを分析するなんて、学問的にはちょっとねえ、どうせ全部結果論じゃないの？ と思っていたけれど、そして、その思いが完全に払拭されたわけではないけれど、どうしてどうして、これは「人の欲」という人類共通の衝動を題材に、異文化とか国境とか、つまりはなんで人類がこんなにバラバラなのか、を問い返す営みとして読めそうです。 そして、そんなふうに読めば、深いところまで行けるでしょう。たぶん、きっと。	4
16	マルコム・グラッドウェル	急に売れ始めるには ワケがある	2007	780	336	ティッピング・ポイント——初耳ですよ、たぶん。 少数者の法則、粘りの要素、背景の力。この3原則から成り立ちます。覚えた？ マーケティングを論じているようにみえて、社会変革はどう起きるか(むしろ、どう「起こす」か)まで射程に入っているところが、さすがタダモノではありません。	5
17	指南役	透明人間の買いもの	2007	1300	195	あなたは目立ちたがり？ でなかったら、この本の事例のあれこれに、うんあるある、と膝を打てることでしょう。ホイチョイっぽいかも、なライトなつくりです。	5
18	井上 理	任天堂 “驚き”を生む方程式	2009	1700	288	人生のたくさんの時間をお世話になってきた、いやたぶん今もお世話になりつつあるゲームの世界のお話。 京都の花札屋がいかにして世界制覇を成し遂げたか？ なんてまとめると、ありがちサクセスストーリーっぽく聞こえるけれど、どうしてどうして、この会社はタダモノではない。「最先端じゃなくてイイ、枯れた技術でじゅうぶん」「僕らは役に立たないモノを作ってる」、経験に裏打ちされたスゴイ言葉がぼんぼん飛び出してくる。数時間のインタビューをお手軽にまとめたのとは底力の違う、取材の手あつさがあってこそだろう。気合いの入ったルポルタージュである。 そして何より、社長の岩田さんが我らが東工大の大先輩だったことに、アツくなれる……はず！	5
19	ムハマド・ユヌス	貧困のない世界を創る	2008	2000	365	地球上から貧困をなくす仕事。政府にも国際機関にも、NPOにも企業のCSRIにも、これこれこういうわけで、この仕事はできないんです。だからこそ「ソーシャル・ビジネス」の出番なんですよ、と理詰めで静かに語りかけてくる。 声高なアジテーションから程遠い、実践に裏付けられた、心にしみいるようなおだやかな語り口がとても好ましいけれど、静かすぎてとっつきにくいかも。そんなときは239ページからのヨーグルトトークのつまみ食いからどうぞ。 「利益の最大化に専念する」「一次元的人間」のみを仮定していいの？(51-2ページや82ページ) 男女の区別なく「労働者」とくっつけてしまっているの？(106ページ) 経済学のおおもとをゆさゆさ揺さぶる根源的な問いは、これから経済学を学ぶかたがたに必須の栄養になるはず。	5

20	渡辺奈々	チェンジメーカー 1・2	2005	1600	1:186 2:273	女のひとが多いなあ。ひいふう……18人のうち12人。みんな笑顔がきれいだなあ。 世の中のためになる仕事。そんなのは、才能と運に恵まれたごく一部のエリートさんにしかできないさと思っていたけれど、今日び、意外とそうでもないみたい。国境なき医師団のようなシニセでなくても、いろんなNPOが生まれて、この社会の歪みを正そうと、しなやかに真剣に働いている。もしかして、その仲間たちのなかに、あなたの居場所があるかもしれない。 「地の塩」という言葉を思い出した。	4
21	シルヴァン・ダルニル マチュー・ルルー	未来を変える80人	2006	1600	281	気のあった2人組が寝袋かかえて地球一周、社会起業家さんに片っ端から突撃取材、という趣向です。まるでTV番組みたい？ ご名答！ ツッコミは浅いけど、ばらばらとながら視聴するだけで、いろんなトライアルのサワリに立ち会える気軽さがお得です。	5
22	ウエンディ・コップ	いつか、すべての 子供たちに	2009	1600	261	若いから無力だ。 21歳のウエンディもそうだった。ただウエンディが他の大学生と違ってしたのは、めっちゃめっちゃ自信家でタフだったこと。 Teach for America——新卒の大学生を2年期限で底辺校の教師に送り込むプランを考えてみた。そのことで教育格差を埋めるの。はじめは小規模で？ ダメ。一挙に500名。大攻勢をかけて全アメリカにムーブメントを起こすんだ。 ほんとにムーブメントを巻き起こし、そのトップを走りに走り抜いた、これは戦いの記録。どの瞬間も「資金」という酸素を求めてあえぐ苦しみに満ちている。 まずはなかほどのカラーページで現場の熱気を体内にチャージしてから戦いのリングへどうぞ。	5
23	西水美恵子	国をつくるという仕事	2009	1800	297	よく怒り、よく泣く。それがマダム・ミエコの推進力かも。 途上国を支援する世界銀行という仕事。電線に流れている電力まで二大政党が分捕り合戦している(インド235-236ページ)など、生半可な正義感では太刀打ちできない、絡まりもつれた現状に、それでも「何が正しいか」だけを武器に敢然と立ち向かう勇姿がすがすがしい。 いやそんなゴリッパなお話はどうもね、というかたには、274ページ、伝統衣装外交のエピソードだけでも。	5
24	駒崎弘樹	「社会を変える」を 仕事にする	2007	1400	245	そんなにゴタイソウな理想や使命感があったわけじゃないんだ。 ベンチャーやってて、ふと行き詰まって、じゃあなんか、金儲けじゃないことやってみっか、みたいな。 ワーキングママたちのために、子供が急病の時に預かってくれるNPO「フローレンス」を立ち上げた駒崎さんの、いきあたりばったり、でも大まじめでアツい浮き沈み人生。 ポコンポコンとキーワードが大きなフォントになってて、そんな工夫も駒崎さんの人生みたいにメリハリがあって◎。	5
25	トーマス・ フリードマン	グリーン革命 上・下	2009	1900 1900	643	Hot, Flat, and Crowded. 暑くて、ペしゃんこで、ギウギウ詰め。まるで満員電車みたいな地球を、さあどうする？ みんなで緑をたいせつにね、なんていう学芸会スローガンなんかでは全くないので、悔るなかれ。さすが辣腕ジャーナリスト。その洞察は表面的な事象の裏側をすどく照射し、世界のしくみと行く末がまざまざと見えてきます。上巻第4章「独裁者を満タンにしつづけるのか？」は特に目ウロコでした。	4

26	ポール・ホーケン	祝福を受けた不安	2009	2400	337	<p>帯に「全米ベストセラー環境バイブル！」と謳われています。またいつもの……と思ってしまうですが、「バイブル」と呼ぶのは、ある意味正解。脈絡がなくてカオスだから。カオスだけれど啓示に満ちているから。環境・貧困・差別といった大文字の問題群に立ち向かう、蟻のごときたくさんの具体例。アメリカのレイチェルカーソン、アフリカのナイルパーチ、パタゴニアの先住文明、インドのコカコーラ抵抗運動……などなどなどなど。めくるめく話題の渦。通読にはとても根性が要るけれど、どの部分を切り取っても、みっちり内容が詰まっておいしくいただけます。濫読好適品。</p>	5
27	ナショナル・ジオグラフィック	地球のハローワーク	2009	1900	333	<p>表紙の写真に一目惚れ。人生の豊かさとか、地球の広さとか、めんどーなコリクツなんて、どうでもいい。パラパラめくって運良く「一目惚れ」に出会ったらこの本はあなたのものです。</p>	5
28	ローワン・ジェイコブセン	ハチはなぜ大量死したのか	2009	1905	319	<p>働き蜂の過労死——いえ、昆虫の世界のお話です。昆虫の世界のお話だけれど、人の世界に深く深く関わっています。ハチがいなくなるとハチミツが食べられなくなる……だけならまだいいけれど、リンゴも梨もアーモンドも、ハチが受粉を媒介しているニンゲンの食べ物が全部絶滅してしまいます。そうになったら木村さん(『奇跡のリンゴ』)も大困りですよ。でも実際、2007年には北半球のミツバチの4分の1が消えてしまったんです。事実の検証を積み重ねつつ、じわりじわりと核心に迫ってゆくサイエンスストーリーの王道。たっぷり蜜のつまった濃厚な内容です。</p>	5
29	福岡 伸一	生物と無生物のあいだ	2007	740	260	<p>ダイナミック・イクイリブリアム＝動的平衡。この着眼から社会というものをとらえてほしくて、リストに加えました。分子レベルで見た私たち生命体は、外界から隔てられた個物ではなく、たまたま密度が高いだけの分子のゆるい淀みに過ぎず、しかも絶えず高速で入れ替わっているような。生きているとは、いつも中身を入れ替え続けているということ。「秩序は守られるために絶え間なく壊されなければならない」そうなのか！ 興奮しました。これは生命体の理解だけでなく、社会や組織といった「人のあつまり」を理解するときにも使える、と。そんなふう生命体の話としてでなく、社会や国家に応用できないかと虎視眈々たるスタンスで臨むと、社会工学的にも実り多いかと思えます。第9章だけでもぜひ。</p>	3
30	福岡伸一	動的平衡	2009	1524	240	<p>『生物と無生物の間』が新事実満載の気合いの入ったパワフル講義とするならば、こちらは同じ事実を踏まえつつも、ぐっと気さくな炉端トーク。だから、『生物と無生物の間』のイントロダクションとしても、逆に余韻を楽しむかたちでも行けます。生命は分子の淀み。なんてユニークで魅力的な世界観。クセになりそう。</p>	4
31	ライアル・ワトソン	エレファントム	2009	1800	345	<p>スピリチュアル、なんて聞くと、マユツパって思ってしまうのだけれど。282ページ、陸で最大の生き物と海で最大の生き物が超低周波で会話する光景が焼き付きました。象。この滅び行く崇高な生き物を全身全霊で愛し抜いた男の、あとの世代に託されたたいせつな遺言。</p>	5

32	グレゴリー・クラーク	10万年の世界経済史上・下	2009	2400	上:293 下:281	人類は進化し続けている。どこかで無邪気に、そう信じていた。マルサスの罠にはまった大停滞時代の説明で、その無邪気が粉々に打ち碎かれる。壮大なテーマが野心的・刺激的で、そのぶんアブなっかしい。信憑性の高いイギリス統計部分と、見るもあやういアジア部分を、じょうずに読み分けられれば、つきあって損はない、はず。	5
33	高野 潤	マチュピチュ—天空の聖殿	2009	1000	192	天空の城？ 天空の花嫁？ まあ、似たようなもん。遺されたのは石組の遺構だけ。どうして宝物は埋まっていないの？ 発掘された173体の遺骨のうち約150体は女性。彼女たちは神に仕えていたの？ わからないことだらけなので、文字をいくら連ねても答えは出ません。それよりも、このすばらしい写真に導かれて、しばしの天空散歩をどうぞ。	5
34	塩野七生	ローマ人の物語 ハンニバル戦記 上・中・下	1993	1200	581	カンネからザマへ。戦術の天才ハンニバルが、ついにその牙を折られる時が来る。あれほどに鮮やかな包囲全滅作戦をあまた成功させてきた男が、まさにその同じ技を敵のスキピオにかけられて。「ハンニバルの不幸は、優れた弟子が敵方に出てしまったことであつた」(下巻83ページ) ドラマティックな記述は一行もない。なのに、男たちの覇気と無念が、ありありと迫る。加えて、政治の要諦についての、本質を衝いた洞察。おじさんたちの愛読書ナンバーワンであるのもうなずける。ただ、そこは社会工学生たるもの、批判的に読まない(蛇足ながら、この批判的スタンスは、同じくおじさんたちの愛読書である司馬遼太郎先生に対する時もある必要)。紀元前。ほんとにほんとに遠い昔の昔の象部隊のとどろきに思い馳せつつ。	1
35	エリック・ジェイガー	決闘裁判 世界を変えた 法廷スキャンダル	2007	2100	277	1386年フランス。そんな遠いできごとなのに、決闘場の柵に顔を押しあてて、二人の騎士が槍と斧と剣で殺し合うようすが、まざまざと見えてくる。ストーリーの焦点に立つのは美しいマルグリット。自分に辱めを加えた狼藉者を絶対に許さない。「沈黙を破れば醜聞とさまざまな危険に襲われる」と承知で、敢然と行動を起こした女性。この時代にあつて、自らを貫いた稀有な精神が死闘の砂埃のかなたに、まぶしく輝く。ジャンヌ・ダルクより、凄いかも。	2
36	安達正勝	死刑執行人サンソン	2003	700	237	仕事として人を殺す。その不条理をプロフェッショナルとしての誇りを以て乗り越えていった、たくましく家系の男たちの肖像が、じつにいきいきと提供され、ギロチン華やかなフランス革命の奔騰のまっただなかに首根っ子ごと巻き込まれる。	1
37	安達正勝	フランス反骨奇人列伝	2006	735	205	昨年のサンソン人気にあやかってセレクト。革命期を生きた4名のいずれ劣らぬ気骨ひと。太陽王ルイに、あるいはナポレオンに抗して敢然と己を枉げなかったところが、惚れ惚れと潔い。とりわけ死刑執行人「大サンソン」の孫の懊悩のくだりは、しっかり作者の共感が乗っていて、ぐっと胸に迫ります。	2

38	中野京子	怖い絵 1・2・3	2007	1800	1:236 2:241 3:243	<p>絵は怖い。画家の辛辣な筆が、人の体の醜さを、人の心の卑しさを、これでもかと暴き出してしまうから。絵は怖い。人の醜さや卑しさをぞんぶんに暴き出した返す「絵筆」で、その絵を描いた画家自身の心に潜む憎悪や偏見をも、容赦なく暴き出してしまうから。</p> <p>好評につき続編もリリースされたばかり。本編では、ムンク、ゴヤ、ダヴィッドの「マリー・アントワネット」にラトウールの「いかさま師」が、とりわけ怖い。続編では、ブリューゲル「ベツレヘムの嬰兒虐殺」、サロメ、そして、ミスター・アルノルフィニの爬虫類の眼。</p> <p>ぱらぱらめくって、気になった絵のところから中野流のホラー・ワールドへGO!</p>	3
39	深井晃子	ファッションから名画を読む	2009	950	271	<p>時代ごとのオシャレさんたち大集合。</p> <p>どっしりゴージャスな絹のドレスで行くか、さらり自然体の木綿素材か。日傘という小道具だって、バルコニーという場所だって、み～んなオシャレのたいせつな要素なんです。</p> <p>理想のミュージックに、どの時代で出会えましたか？</p>	5
40	スティーヴン・ジョンソン	感染地図 一歴史を変えた 未知の病原体	2007	2600	261	<p>1854年、ロンドン、コレラ禍。死神は井戸を伝ってやってきた。</p> <p>いや、悪いのは空気でしょう、という先入観と科学的精神がいかに戦ったか。</p> <p>私たちは、つい地図を眺めて「上から目線」でできごとをとらえてしまうけれど、現場を這いずりつつ、地図をつくることから始めた戦いの各シーンがスリリング。</p> <p>歴史上の1エピソードと片付けず、都市なるものが今後どうなるか、著者はしっかり未来へと視線を向けている。</p>	2
41	サイモン・シン	暗号解説 上・下	2007	629	636	<p>つくる快感。解く快感。あなたは、どちら側の人間？</p> <p>おなじみ踊る人形から始まって、鍵を独立宣言に隠したり、エニグマしたり、ナバホ族したり、アリスとボブの公開鍵に、今のはやはり量子暗号。</p> <p>いやもう、人間ってほんと、カクシゴトが好きなんだなあ、とそのため積み上げられた膨大な努力と叡智の大山脈に惚れ惚れ。あきれつつ縦走ください。</p>	3
42	高木徹	戦争広告代理店	2002	619	405	<p>世論は善悪をハッキリ決めたがる。バルカンの小国ボスニアは、アメリカの広告代理店の力を借りて、敵ユーゴスラビアを悪役に仕立てることに成功する。ほんとうの悪者はいったい誰？</p>	1
43	松本仁一	カラシニコフ I・II	2008	600	528	<p>今、アフリカはどうなっているのか。子供でも扱える銃の普及は、崩壊した社会の暴力を加速する。「植民地のほうがましだった」。第1章「少女兵」の話がつかつたら、第3章あたりから。</p> <p>そして、アフリカメインだった第1部に続き、第2部は南米のコロンビア・パナマへ、アフガニスタンへと飛ぶ。</p> <p>人が人をとても手軽に殺してしまうAK47という武器は、世界をこんなにも荒廃させてしてしまうのか。</p>	3

44	アスネ ・セイエルスタッド	カブールの本屋 －アフガニスタンの ある家族の物語	2005	1800	356	アフガニスタンの首都カブール。当地ではそこそこ裕福な部類に属する一家庭に女性ジャーナリストが寄寓し、ブルカをかぶった女たちと寝食をともにして、ゆっくりゆっくり気持ちを聞き出した。このまことに稀有な取材を、ていねいに再構成することで、男たちの自負、女たちの忍耐のそれぞれが徐々に焦点を結んでくる。タリバン以後の、この社会における暮らしのありよう、幸せのかたちは？ 13人の家族の世話を一手に引き受け、土埃舞う部屋で黙々とタマネギ炒めをつくる黒い瞳のライラの運命にどうか耳を傾けてください。	2
45	DVD版	オバマ大統領就任演説	2009	1980	92	まずは、そのあざやかなパフォーマンスを堪能してみる。 つぎに、どんな話題、言葉が選ばれ、どう構成されて、かくもみごとな、エモーショナルな演説になったのかを分析してみる。 そんなふうには二度は楽しみたい逸品です。 私にとっては、くりかえしくりかえし、歴史が参照されることが、やはり印象的でした。 endured the lash of the whip～ムチの痛みを耐え～と黒人の苦難をもほのめかしつつ、 Gettysburg(南北戦争) Normandy(二次大戦) Khe Sahn(ヴェトナム)。 演説ラストで語られる建国の苦難は in the coldest of months～一年でいちばん寒い月～のできごととして語られ、それが in this winter of our hardship～我々が直面している困難な冬の時代～へと重ね合わされ、聴衆たちが立つのも1月の寒い屋外モール。計算しつくされたシンクロぶりは、さすがです。	4
46	神谷秀樹	強欲資本主義 ウォール街の自爆	2008	710	189	何が起きてこうなってしまったのか、ウォール街の現場からリポーターがお伝えます、といった趣。カタカナ用語が乱舞するけれど、説明はとても分かりやすい。 何よりも自らも金融ビジネスに携わっている著者が、自分の仕事ポリシーはこうだ、なのに世の趨勢は… …とつねに自らを補助線とし、体験を披露しつつの現状分析であるところが地に足が付いた良さ。	4
47	堤 未果	ルポ 貧困大国アメリカ	2008	700	200	サブプライムに不法移民、所得格差が拡大するいっぽうなのは国家がそう仕向けてるから。ワーキングプアはイラクで傭兵と化す。テロより怖い民営化。 ぱんぱんぱんと立て続けに見せられて、ここまでひどいのか、と啞然。ちょっと片方の局面を強調しすぎだとは思ふものの、そのぶん主張はわかりやすい。それがベストセラー街道驀進の理由か。 そして、これが日本でベストセラーになるのは、明日は我が身の危機意識か、それとも、やあいアメリカン・ドリームも崩壊してるんだと野次馬的いい気分になれるからか。 などなど、いろんな読みを引き受けられるパワフルな話題本。	3
48	亀山哲朗	やってくれるね、 ロシア人！	2009	1300	232	すごいぞロシア。列車の案内板の番線箇所には「？」マークの紙が貼られてて、列車が到着するたびに、みんな荷物を持って地下通路を走り回るんだってさ、いやほんと(202ページ)。 といった爆笑エピソードのかたわら、収容所の跡へと草踏み分けての自転車行軍など、重たい歴史や多彩な人物との、しみじみとした邂逅もたくさん。カメヤマさんはカメラマン。だけど文章も一級品。	4
49	ポール・トインビー	中流社会を捨てた国	2009	2000	269	ハローこちらイギリス。 情勢はよくない。きわめて、よくない。ここでも格差は拡大中、拡大中。 でも、そんななか、就職支援に子育てサポート、こんな新しいトライアルが始まっています。前向きレポートが頼もしい。	5

50	山本秀也	本当の中国を知っていますか？	2004	1700	242	暗い話が続きます。貧しい農村、環境汚染、エイズ。made in China のタグの向こう側にある重い現実。だけれども、アフリカの話を読むような絶望感とはどこか違って、かの国は、この逆境をきつと克服してゆくに違いないと、読みながら思えてきます。それは登場するかたがたのパワフルさゆえ。何だか新聞記者さんの悲観論につきあって、記者の期待する話を提供しているフシまであったりして。聖徳太子の昔から、ずうっと我が日本の規範となってきてくれた偉大なる隣人の今の、ほんの一部。	5
51	蓮池薫	半島へ、ふたたび	2009	1400	252	振幅の大きな経験をくぐった人は、さりげないものを目にしても感じ方の深さが違う。まさに経験が人の器を大きくするんだ、と痛感します。すぐ隣にある国の、とても分かりにくい実像。	5
52	石井光太	物乞う仏陀	2005	650	341	石井光太の視線は、正視するに耐えないものも鋭くえぐってゆく。25歳、6000ドルを握りしめて成田から出発して、カンボジア・タイ・ベトナム・インド……。救いのない現実の連なりに暗然。	2
53	石井光太	神の棄てた裸体 —イスラームの夜を歩く	2007	1500	295	印税すべてを握りしめ、彼は再び旅へ出る。28歳になっていた。またしても、凄まじい現場へ、強靱な精神力で立ち向かってゆく。	2
54	石井光太	絶対貧困	2009	1500	272	石井光太さん。同じ著者の本を3冊というのは異例の事態だけれど、それでも、私たちがおそらく一生関わらずに「済む」(←この2文字をゴチックとして読んでください)であろう世界を、ここまで深く、たしかに、かつ明確な主張とともに届けてくれる書き手さんを他に知りません。 山室的立ち読みポイントは ・45-46ページ メイちゃんのお母さん ・145ページ 花売りビジネスモデル ・259-260ページ 売春宿の子供は高学歴	5
55	伊藤洋一	ITとカースト インド・成長の秘密 と苦悩	2007	1700	228	インドには興味津々だけれど、『厄介な〜』はゴツすぎてどうもね、というかたには、手軽にこちらをどうぞ。取材の幅や深さは『厄介な〜』に遠く及ばないけれど、日本人視点の率直さが良さ。ほんとに、どうしてインド人はオリンピックでメダルを取れない(むしろ、取らない)んでしょうね。	4
56	小林紀晴	ASIAN JAPANESE 1	2004	590	368	甘え、と言えるのかもしれないな。自分探しと称して、いい若いもんが、アジアを何ヶ月も何年も、あてどなく放浪する。ニッポンと比べて物価がめっちゃめっちゃ安いから、できることだよね。そんな若いもののひとりが、バンコクで、バリで、カトマンズで、彼らのポートレートを撮り、それぞれの胸の内を聞き出した。さらに帰国後の彼らにコンタクトして、その後の人生をまた撮った。引き続き自分探し中のひと、ちよびつと夢に近づいたひと。 甘えとも、そうでないとも言い切れない、いまだ旅の途上の彼らの言葉に、彼らのまなざしに、やはり自分探し中のこの場の読者さんたちが、ふっと感応するものがあれば幸い。	3

57	ロバート・ゲスト	アフリカ 苦悩する大陸	2008	2200	308	<p>不幸な家庭は、それぞれ異なるとトルストイ先生はおっしゃったけれど、アフリカの国家が陥っている不幸は、何だかお互い似通っている。石油掘削機が順調に稼働しているのに内戦に明け暮れるアンゴラの不幸も、奔流のごとき援助に浴し続けながらも日に日に国民が貧しくなってゆくザンビアの不幸も。どうやら、おおもとの原因は国家というシステムがちやんと機能していない、という点に行き着きそうだ。シンプルだけれど重たい結論。</p> <p>じゃあ、どこをどう改革してゆけばよいのか？ ジャーナリストという、いわば〈野次馬視線〉で惨状をただ記録するのではなく、エコノミストとしての〈分析力〉を武器に、どうしたら、このたくさんの「家」たちが幸福になれるのか、現場からの真摯な問いかけが重ねられてゆく。</p>	4
58	松本仁一	アフリカ・レポート	2008	700	199	<p>『カラシニコフ』の著者が伝える最新のアフリカ情報。</p> <p>失敗だらけの国づくり、たくましく中国人商人の展開など興味尽きないが、経済学を勉強している社会工学生なら、下記の2点をぜひ考えてほしい。</p> <p>ジンバブエの惨状について、著者はインフレ率16万%、ハンバーガー1個が3000万zドルと紹介し、それもこれも権力が腐敗し、ムガベ大統領が私腹を肥やしたせいだ、と指弾する。</p> <p>疑問1 物々交換が常態の国において、通貨を基準にした数値は、どれほど意味を持つのだろうか？</p> <p>疑問2 権力者がスイス銀行に隠し口座を持ったくらいで、国の富がすっからかんになってしまうものなのだろうか？</p>	3
59	白尾元理	日本列島の20億年	2009	1900	100	<p>写真がすばらしい。特に空撮。鳥の目でしっかりと山や川が、どんなふうに地形をつくってきたかが見てとれる。ナンバー20の新雪富士にほれほれ。</p> <p>解説が、もっと愛想良かったらなあ。できればイラスト入りがあらまほしい。良い企画なのに、そこがホント惜しい。</p>	4
60	飯田泰之	歴史が教える マネーの理論	2007	2000	185	<p>円とドルの話ばかりじゃ、単調だし飽きるよね。</p> <p>だから江戸時代に行ってみました。金銀小判がざっくざく。</p> <p>歴史の良さは、すでに結果が出てるから、ものごとの因果関係がすっきり見えやすいこと。そのメリットをうまく生かして貨幣論の要諦をいねいに伝授してくれます。</p> <p>それにしても、世の中、単純から複雑に向かうのが流れなのに、経済の根幹を支える貨幣については、なぜか前近代のほうが複雑怪奇、金建て銀建て銭建てと多様な貨幣大系が並立してて、しかもしょっちゅう貨幣改鑄してるし、これでどうやって市場が機能してたんだろ、江戸時代の商人のほうが頭イイってこと？ なんてのが最近の山室のひそかな関心事です。</p>	5
61	磯田道史	武士の家計簿	2003	680	203	<p>埃まみれの古文書から微細にあぶり出される武士家族の収入と支出。維新を乗り切ったつましい暮らし。</p>	1
63	ジョー・オダネル	トランクの中の日本	1995	2500	98	<p>たぶん戦争体験って、こんなふうにはしか手渡してゆけないのかもしれない。</p> <p>ハエが真っ黒にたかったりんご(90ページ)とか、アルミニウムのお盆(30ページ)とか、そして彼の代表作と称えられる96ページの少年……痛みなしでは受けとれない。</p> <p>写真の重み、それが語るドラマの重みを受けとめつつ、並記されている英語のコメントにも目をとめてください。それもまた、ジョー自身が刻んでいったたいせつなメッセージだから。</p>	3

62	林 望	ついこの間あった昔	2007	1500	240	和服のおばあちゃんが茶の間で(!)新品の洗濯機のローラーを回して洗濯物をしぼっている。手前には夕餉のしたく。そんなレトロ写真に、そう言えば夏休みに洗濯の手伝いで衣類を「のしいか」にするのは、けっこう楽しかったっけ、と著者自身の思い出を重ねる。 ありきたりの写真解説ではなく、個人の記憶と重ね合わせることで、昭和の内ぶところに、より深く抱かれる。	2
64	野口悠紀雄	戦後日本経済史	2008	1200	237	サブプライムかまびすしい昨今、経済学を学ぶ際、具体的なトピックは、やはり意識しておきたい。石油ショックに土地バブル、「絵画は壁にかけた土地だ」った時代を経て、山一崩壊からライブドアへ。 タイトルから予想されるモノモノしい概説ではなくて、むしろ経済界ウラバナシ集といった趣。週刊誌連載なのでトークも軽妙、どこからでも出入り自由。	3
65	松本典久	ぐるり一周34.5キロ JR山手線の謎	2009	762	208	もちろん山手線の中で読んでくださいね。 29駅一周物語。一駅ごとに一話ずつ、シンクロさせて読んでみるのも乙なもの。ゆったり座れる屋下がりがオススメです。	5
66	藤森照信	藤森照信、素材の旅	2009	2400	247	なんと本のタイトルにまで出しゃばっちゃう濃い個性の作者さん。 現場でも、おとなしく腕組みして観望しているわけもなく、「僕にもやらせて！」 屋根葺き用のコケラ板を割ったり、熱した竹を磨いたり、杉板のロケット噴射ごおつ。なかでもいちばんアツいのはトンテンカンテン、真っ赤な鉄から和釘を打ち出す鍛冶屋さんでしょうか。本日の働き、釘4本ナリ。 モノづくりっていうよりも、モノそのものが、ほんとに好きなんだなあ。	4
67	隈 研吾	自然な建築	2008	700	208	こんくりーとをやっつけろ！ スローガンに起こしたら、そんな感じかな。 でも、ありきたりの近代文明批判じゃなくて、有言実行、モノをつくってみせるところがカッコいい。 ごつい石に涼やかさを託し、もろい竹にたくましさを担わせ。うーむうーむと現場の苦心を共有するうちに、いつしかクマさんのプロジェクトの一員になって、一緒に無い知恵をしぼっている。現在進行形の熱気がいいね。	5
68	石川拓治	奇跡のリンゴ	2008	1300	192	変わりもんの困りもん。津軽弁でカマドケシと呼ばわるそうな。 そのカマドケシさんが、変わりもんであるがゆえに成し遂げてしまった、とんでもミラクル無農薬リンゴ。 徹底的に現場主義、リンゴの木から一歩も離れずに語られる体験談がさすががしい。なるほど、生態系を殺すことから農業って始まるんだね、と納得。 九年ぶりに白い花を咲かせたりんご園。木村さんと一緒にお花見をどうぞ。	4
69	門田隆将	なぜ君は絶望と 闘えたのか 一本村洋の3300日	2008	1300	237	電車のなかで読まないで。たぶん、涙が止まらなくなるから。 光市母子殺害事件。なぜに自分の家族が？ 突然に叩き落とされた奈落の底から、どんな光を頼りに青年は自らの力で未来を開いていったのか。それがいつしか日本の司法制度を変える大きなうねりとなってゆくまで。 一人称ではなく、情に流されない観察者の筆致で、しっかりとあとづけられた、たったひとりの、けれど重い足跡です。静かな熱さに吸い寄せられて、一晩で一氣に読みました。	4

70	清原和博	反骨心	2009	740	188	男は踏まれて強くなる。 「いっちょ、ガツンと言わたる」。少年時代そのままの闘争心に全身を燃え立たせて彼はバッターボックスに立ち続けた。ドラフトに敗れても、死球の嵐に見舞われても、戦力外通告を受けても。 ジャイアンツというチームがいかに特殊なポジションにあるかも、よく分かります。 □	5
71	蝦蔵 & 海野凧子	日本人の知らない日本語	2009	880	63	国際交流最前線。 日々コレ疾風怒濤のナギコ先生とご一緒にどうぞ。	5
72	内田 樹	街場の現代思想	2008	571	234	だってそうでしょ？——ウチダさんの議論はとっても平易で、なのにユニークで痛快。会社と給料、結婚という「終わりなき不快」から、あなたがなぜバレンタインの義理チョコをもらえないかに至るまで。さくさくさくさく、いろんな疑問がここよく砕け散ってゆく。78ページから読み始めるのがオススメです。 ちなみに私は下記のフレーズに感動しました。 「学者が学者でいられるのは、自分の理論を否定するデータを他の研究者より早く発見しようと努力する限りにおいてである」(126ページ) なあるほど。	5
73	岸勇希	コミュニケーションデザイン	2008	1800	186	コミュニケーションをデザインするための本 あんなヒット例、こんなサクセス例。うきうきと並べてゆくことで、この本自体が電通という企業のリッパなコマーシャルになってしまっているのだから、したたかと言うか。 でも披露される、たくさんのテクニックは、ふむふむなるほどと興味を引くものばかり。 そうそう、「40人40色の恋愛模様」のサイトに仕掛けられた人気投票システムは、我がヒストリアンズでもすでに実現しているではないですか！ やったね♪	4
74	ポール・アーデン	プレイ・ジョブ	2008	1200	144	33ページがエロティックでステキ☆	5
75	チップ・ハース ダン・ハース	アイデアのちから	2008	1600	342	なんて、やる気を感じられないタイトル。よっぽど内容に自信があるのかしらん。 単純明快、意外性、具体的、信頼性、感情に訴える、物語性、ぜんぶで六つですよ、みなさん、覚えましたか？ Simple Unexpected Concrete Credible Emotional Story——頭文字をつなげると、ほうら。 いや、覚えるほどのこともないあたりまえの要素。でも、これでもかと挙げられる事例のおもしろさに、ついつい読みふけてしまいます。 153ページ「茶色い目、青い目」の実践例が心にしみました。 なんで数学の勉強しなくちゃならないの、と塾で生徒に訊かれても困らないようになりたければ260ページへGO！	5
76	エドワード・ゴーリー	ギャシュリークラムのちびっ子たち	2000	1000	54	おとなの絵本は こわくて かなしい	5

77	山口 晃	山口晃作品集	2004	2800	80	ルーペしおりは飾りじゃない！ こまかく緻密に組み立てられた「もうひとつのニッポン」。 古いような新しいような、現実のような絵空事のような。 しばしの時空散歩をどうぞ。	5
78	中村佑介	Blue-中村祐介画集	2009	3800	176	いつまでも、夢をみていたいあなたに――	5
79	惣領冬実	チェーザレ 1～7	2006	743	100	チェーザレ・ボルジア。500年前のイタリアに現れた、とてつもなく規格はずれの風雲児。その若き日々。ピサの町を舞台に暴れまわる凜々しさにほれほれ。 BL？ と、と、と、とんでもない！ 全ラインナップで唯一のコミック版です。コミックなので、全ページ読んでも、100ページまでしかカウントしないというルールで宜しく。	3
80	和田 竜	のぼうの城	2007	1500	332	のぼうさま。戦国時代の終わりに、ぬうっと現れ出でた主人公の茫洋さ加減がスゴい。 その類例のない人物造型を初めからゆっくり味わうのもよし、253ページからのクライマックスシーンをちょっと覗きだけでも。 ニュータイプの歴史小説、その方面では、ただいま大ブレイク中。	3
81	畠中 恵	ころころ	2009	1400	250	しゃばけシリーズ最新刊。 敢えて第8弾のみ。シリーズものは、ハナから読まないで落ち着かないぜ、という反濫読主義のあなたのための、つまみぐいの練習台なのです。使ってやってくださいな。	5
82	森見登美彦	有頂天家族	2007	1500	353	この世の中は天狗と狸と人間から成り立っています。 三択だよ、って言われたら、何になりたいですか。 ゼツタイ狸を選びたくなる。狸になって偽観電に化けて寺町通りを爆走して「それは阿呆の血のしからしむるところだ」って呵々大笑してみたい。たとえ狸鍋にされても。きゃーッ。 章ごとに独立でも読めます。	3
83	森見登美彦	宵山万華鏡	2009	1300	232	院生さんに大々人気だったモリミーワールドの新作を加えてみました。 すべてこの世は幻か。祇園祭の華やぎのなかへどうぞ。	5
84	村上春樹	1Q84 BOOK1・2	2009	1800	1:544 2:494	青豆さんステキ☆ 第1章の首都高の非常階段をハイヒールで降りるところまでで「キター」という感覚に襲われなかったら、そのあとの1000ページにエネルギーを費やしてもムダでしょう。 ブンガクってこちらが向こうに合わせるんじゃないかって、向こうがこちらに合わせてくれるもんだと思うから。 それは、2つの月が浮かぶこの世界の隠しテーマでもあります。	5